保育施設・幼稚園における
結核対策

●都では毎年３千人近くが新たに結核と診断されており、結核は今なお我が国の重大な感染症です。

●近年、保育施設・幼稚園の職員が結核を発病する事例が見られます。乳幼児は抵抗力が弱く、結核を発病すると重症化することもあり、保育施設・幼稚園における結核対策の取組は重要です。

●園児の健康を守るため、本冊子を活用し、職員の健康管理など結核対策を適切に行いましょう。

東京都福祉保健局

目　　次

1 結核の現状 …… 1

2 保育施設・幼稚園での結核発生状況 …… 2

3 結核の基礎知識 …… 3

4 職員の結核と必要な対策 …… 4

5 園児の結核と必要な対策 …… 5

6 結核発生時の対応 …… 6

7 Q&A …… 8

8 保育施設・幼稚園における結核対策チェックリスト …… 10

連絡先 …… 11

1 結核の現状

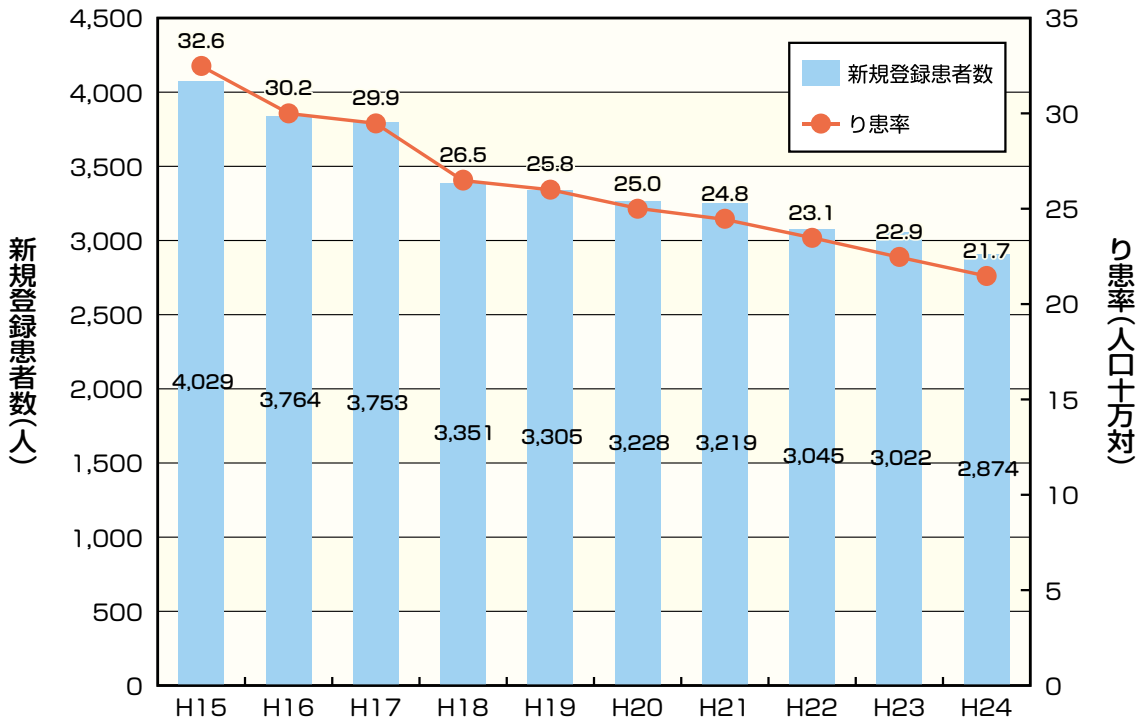
●結核患者数は減少傾向にあるものの、今なお都内では年間３千人近くの新たな結核患者が発生しています。働き盛りの世代の結核患者が多いのが東京都の特徴です。

新規登録結核患者数及びり患率※（平成24年）

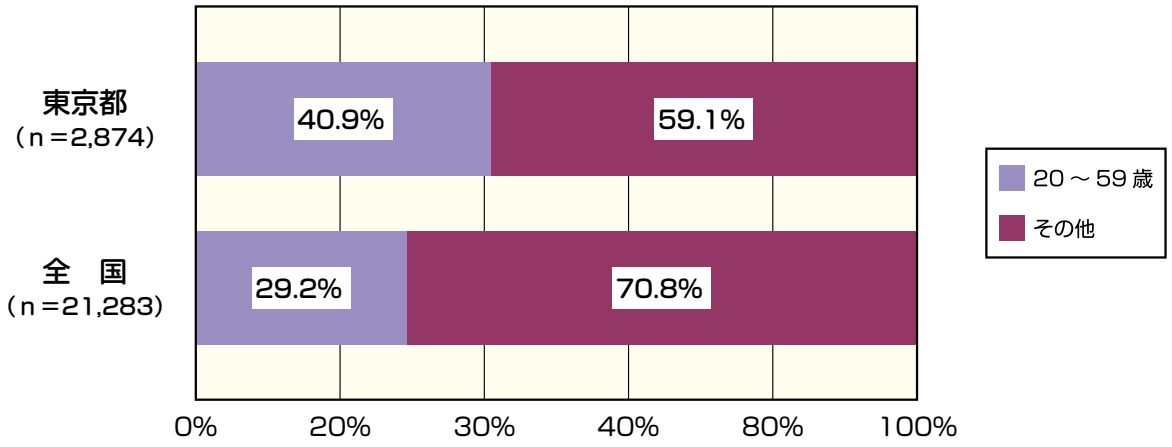
	全　国	東京都
新規登録結核患者数（人）	21,283	2,874
り患率（人口 10 万人対）	16.7	21.7

※り患率：１年間に発病した人口10万人あたりの患者数

新規登録結核患者数及びり患率の年次推移（平成15年～平成24年）



新規登録結核患者に占める20代～50代の割合（平成24年）



2 保育施設・幼稚園での結核発生状況

●職員と園児が濃厚に接触しながら集団生活を送る保育施設や幼稚園では、ひとたび結核患者が発生すると周囲に拡がるリスクが高く、集団感染事例も見られます。

A市・B保育所における結核発病事例

●平成２３年７月１４日中日新聞朝刊より転載（但し、市名、保育所名はそれぞれA市、B保育所と変更）

「保育士が結核発症　園児らに症状なし」

A市は13日、B保育所の30代女性保育士が結核を発症したと発表した。園児や職員に結核の症状は出ていない。

市によると、保育士は、6月中旬にせきやたんなどの症状があり、今月5日に市内の医療機関を受診して肺結核と判明。8日から入院し、医療機関が県に届け出た。保育士は担任は持たず、担任の代行として各クラスの子どもたちと接触していた。

市保健所によると、園児はワクチンを接種しており、感染した可能性は低いという。ただ感染症法に基づき、全職員62人と園児217人を検査する。また保護者向けの説明会を14日午後7時半から市役所本庁舎で開く。

●平成２３年９月１７日中日新聞朝刊より転載（但し、市名、保育所名はそれぞれA市、B保育所と変更）

「12人に感染の疑い」

A市は16日、市立B保育所の女子園児1人が結核を発症し、0歳から5歳の男女の園児12人に感染の疑いがあると発表した。7月7日に保育士が結核と診断されたため、園児216人を検査して判明した。市は「他の子に感染するおそれはない」としている。

市によると、女子園児にせきやたんの症状はなく、治療薬を飲んで治療している。感染の疑いのある12人は発症を防ぐため、予防薬を服用している。

都内における発生状況

●都における教員・保育士新規登録肺結核患者数※

平成22年:18人　**平成23年:27人**　**平成24年:12人**

※保健所が結核患者情報を登録する「結核登録者情報システム」の職業分類に基づく統計値であり、教員には幼稚園以外の学校の教員を含む。

3 結核の基礎知識

結　核　と　は

●結核は患者の咳やたんに含まれる結核菌が空気中に飛び散り、それを吸い込むことでおこる感染症です。

●発病すると、咳、たん、発熱（微熱）、食欲不振、体重減少、寝汗、強いだるさ等の症状が出ますが、風邪の症状に似ているため、発見が遅れることがあります。

こんなときは医療機関へ!!

乳　幼　児　の　結　核

乳幼児は抵抗力が弱く、結核菌に感染すると髄膜炎や粟粒結核を発症するなど重症化しやすく、生命が危ぶまれることすらあります。乳幼児結核の重症化予防に「ＢＣＧ接種」が有効です。

感　染　の　仕　組　み

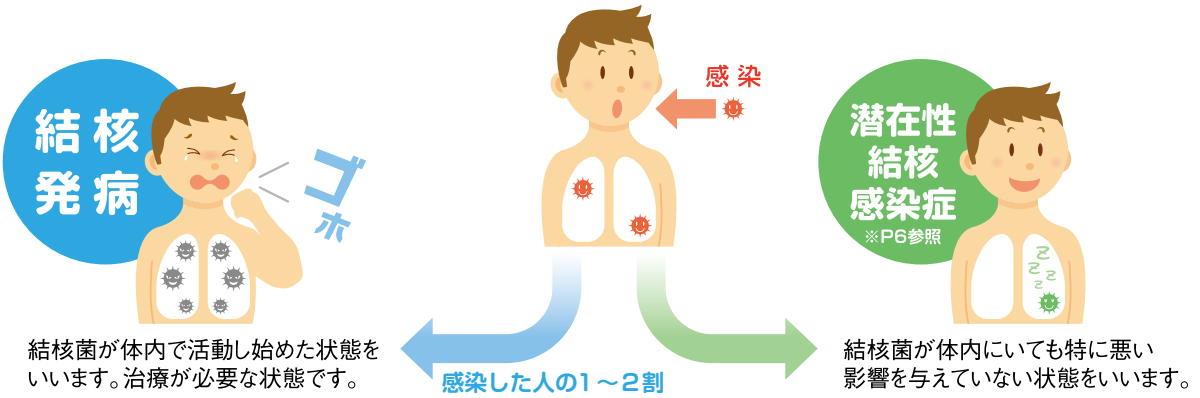
●排菌（※１）している結核患者の咳やくしゃみとともに結核菌が飛び散ります。空気の流れに乗って拡がり、同じ空間にいる人が吸い込むことで感染します。

●結核を発病（※２）しても排菌していなければ、周囲に感染させるおそれはありません。**感染拡大を防ぐためには、早期に医療機関を受診し、排菌する前に治療を始めることが重要です。**

●**感染した人の１～２割が発病すると言われています。**多くは感染後６か月から２年で発病しますが、感染後長い時間を経てから発病する場合もあります。

※１**排菌**：結核の症状が進行し、患者が結核菌を外に出し、他の人に感染させるようになること。

※２**発病**：結核菌が体内で増殖し、身体に何らかの異常や症状を引き起こす状態。病状が進行すると咳やたんの中に菌が大量に排泄され（排菌）、感染拡大につながる。



結核菌が体内で活動し始めた状態をいいます。治療が必要な状態です。

結核菌が体内にいても特に悪い影響を与えていない状態をいいます。

結 核 の 治 療

●結核を発病し周囲への感染のおそれがある場合、入院治療を行います。

●結核を発病しているが周囲への感染のおそれがない場合、通院治療を行います。

●結核の標準治療では、４種類又は３種類の薬剤を最低でも６か月以上服用します。服薬が不規則であったり中断すると、症状が悪化したり、薬剤耐性菌（薬が効かない菌）をつくってしまいます。

●結核は適切に服薬治療を行えば治る病気です。

管 理 検 診

●きちんと服薬をしても、冬眠状態で薬が効かなかった菌が生き残ることがあり、再発率は２～５％といわれています。このため、原則として再発が起こりやすいといわれる治療終了後２年間は、保健所が管理検診として、半年毎の胸部エックス線検査により発病の有無を確認します。

4 職員の結核と必要な対策

●都内では毎年１０～２０人程度の教員・保育士が結核を発病しており、半数以上が感染性のある状態（人に感染させる状態）で発見されています。保育施設・幼稚園においては園児の結核よりも職員の結核発病が大きな問題です。

●園児への感染を防ぐため、職員の健康管理を適切に実施することが重要です。

職 員 の 健 康 管 理

●胸部エックス線検査結果の確認による早期発見

●結核の集団感染を防ぐには、結核を早期に発見し、排菌する前に治療を行うことが重要です。結核の早期発見のため、**職員の胸部エックス線検査結果を把握し、異常がある場合には精密検査を確実に受診させましょう。**症状がなくても、胸部エックス線検査で結核が発見されることがあります。

●早期受診の勧奨

●２週間以上咳が続くなどの症状があれば結核を疑い、**医療機関の受診を促しましょう。**受診の遅れが集団感染を招きます。

●職員への啓発

●**日頃から職員に対して健康管理の重要性、結核の知識を啓発しましょう。**

●咳などの症状がある場合には、速やかに医療機関を受診させるとともにマスクを着用するなど**咳エチケットを徹底させましょう。**

咳エチケットを守りましょう

マスクの着用

咳などがとっさに出そうな時は口と鼻をティッシュで覆う

5 園児の結核と必要な対策

- 園児の結核患者はそれほど多くはありませんが、重症化しやすいため、速やかかつ慎重な対応が必要です。
- 感染源が特定されることが多く、ほとんどは同居の父母などです。

園児の健康管理

通常の感染症対策と同様に園児の健康管理を行います。

- **健康診断の実施**
- **予防接種歴（BCG 接種歴）の把握**
- **健康状態の把握**